

令和6年度NIE活動 実践報告書

江東区立東雲小学校
白井 史朗

(1) 実践の概要、研究のテーマ

本校は、実践指定校2年目となった。児童が新聞に親しみ、日頃から良質な情報に触れる機会を増やすことを目的に、NIE活動を継続的に行っている。児童が社会や時事問題に関心を持ち、自ら考える力を養うことを目指している。

今年度、新たな取り組みとして、学校図書館の予算で朝日小学生新聞を定期購読することになった。この取り組みにより、児童がいつでも新聞に触れられる環境を整備し、情報収集の習慣を育むことをねらいとした。

新聞を活用した活動を通じて、児童が良質な情報源に触れる機会を増やし、自ら考え、判断する力を育てる教育の実現を目指したい。



写真1 本校のNIEコーナー。上3段は、朝日小学生新聞を並べ、下2段は、NIE推進協議会から提供されている新聞を並べた。

(2) 実践の内容

- ①授業での取組
- ②学習新聞の作成
- ③NIEコーナーの増設

今年度は、NIE活動と関連のある授業を2つ実施した。

1つ目は、5年生の社会科で「環境にやさしい家を考えてみよう」という学習を行った。この授業では、災害の種類や発生場所・時期、防災対策をまとめる活動として実施した。単元の最後には、

住友不動産の社員をゲストティーチャーとして招き、「災害に強い住宅を作るにはどのような工夫が必要か」を尋ねた。

児童は災害対策だけでなく、環境にも配慮した住宅について考える機会を得た。また、住宅とSDGsの関連に興味を持つ児童も見られ、クラス全員で読売SDGs新聞の「くらしにSDGsアクションシート」に作品を応募した。



写真2 児童の作成したくらしにSDGsアクションシート

2つ目は、5年生の国語科で「新聞を読もう」という学習を行った。この単元では、文章と図表を関連付けて必要な情報を見つけ、論の進め方を考える力を養うことと、新聞の構成を理解することを目的とした。

1人1部の新聞を教材用価格で購入し、実際に手元に新聞を持つことで、児童は興味を持って学習に取り組んだ。本単元では新聞の読み比べも行い、NIE推進協議会から提供された新聞を活用することで、活動をより充実させることができた。

②学習新聞の作成

本校では産経新聞社が提供する「かんたん号外くん」をさまざまな場面で活用している。例えば、広報委員会では学校行事の紹介を行い、委員会活動の時間にインタビューを実施した後、その内容をもとに記事を作成して学校掲示板に掲示している。また、教員が学習の様子を保護者に伝える

ために新聞を作成する場面でも活用している。



写真3 かんたん号外くんの作品

さらに、理想教育財団から提供を受けた「はがき新聞」を多くの学年で作成している。これを社会や総合的な学習の時間、行事などのまとめとして作成し、掲示している。

はがき新聞を作成することで、文章の構成を考える良い機会となり、継続的に取り組むことで児童の書く力が向上してきている。



写真4 はがき新聞の掲示の様子

③NIE コーナーの増設



写真5 増設したNIE コーナー

実践者の担当学年の掲示板に、NIE コーナーを新設した。このコーナーでは、科学やスポーツ、読書など8つのテーマの記事を掲示している。読売 KODOMO 新聞、読売中高生新聞、毎日小学生新聞、朝日小学生新聞を中心に記事を選定している。少し難しい内容の記事もあるが、多くの児童が立ち止まって読んでいる。また、東京新聞の「大図解」も掲示しており、特に自然科学分野が児童の興味を引きつけている。

(3) 実践の感想と今後の課題

今年度、本校では NIE 活動を継続的に実施し、児童が良質な情報に触れる機会を提供してきた。その結果、自民党総裁選やアメリカ大統領選について自ら調べる児童が現れるなど、社会や時事問題への関心が高まる様子が見られた。また、教材用価格で朝日小学生新聞を購入したことで、費用負担を抑えながら活動を実施でき、児童も集中して新聞を活用していた。

一方で、課題として、児童が継続的に新聞に触れる時間をさらに増やし、情報収集や考察の習慣を深める取り組みが必要だと感じている。これらを踏まえ、今後も NIE 活動を充実させ、児童の主体的な学びを育む環境づくりに努めていく。